

横浜国立大学
統合的海洋教育・研究センター

第1期 (2007 後期・2008 前期)

第2期 (2008 後期・2009 前期)

活 動 報 告

2009 年 9 月



横浜国立大学
統合的海洋教育・研究センター

横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター

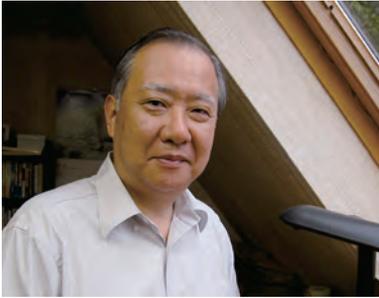
第1期(2007 後期・2008 前期)

第2期(2008 後期・2009 前期)

活動報告

=== 目 次 ===

ごあいさつ : 横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター長 角 洋 一	1
1. 統合的海洋教育・研究センターの概要	2
1-1. 統合的海洋管理プログラムの基本的構成	2
1-2. 統合的海洋管理プログラムの活動経緯	3
2. 教育活動	4
2-1. コア科目「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」	4
2-1-1. カリキュラム	4
(1) 第1期:2007(H19)年度後期+2008(H20)年度前期	4
(2) 第2期:2008(H20)年度後期+2009(H21)年度前期	5
2-1-2. 第1期修了者研究テーマ一覧(ポスターセッション発表)	6
2-2. 関連科目一覧(公開講座とも)	8
2-3. 履修生アンケート結果	9
2-4. 学生海外短期派遣事業	11
2-4-1. 事前調査	11
2-4-2. 海外派遣の希望に関するアンケート	11
3. 研究活動	12
3-1. シンポジウム	12
3-1-1. 経緯	12
3-1-2. 第6回シンポジウム「東京湾を知る、守る、利用する」の概要	12
3-1-3. 成果(アンケート結果/写真とも)	13
3-2. 学内セミナー「海事・海洋産業の動向セミナー」	16
3-2-1. 開催趣旨と開催要領	16
3-2-2. 開催概要	16
4. 活動日誌	20
5. 財務報告	22
〔付属資料〕	
海センターの組織と教員一覧	23



ご挨拶

統合的海洋教育・研究センター長 角 洋 一

横浜国立大学は、2007年6月に部局横断的な文理融合型組織「統合的海洋教育・研究センター」（略称：海センター）を設立し、副専攻プログラムとして大学院レベルの「海洋の統合的管理能力」に関する教育を推進しています。本センターは、これまで学内各部局でそれぞれ行われてきた海に関する教育研究活動の連携強化を図る中核的機関として位置付けられています。また、本センターは、2007年に成立した「海洋基本法」および同法にもとづき2008年に策定された「海洋基本計画」の体制を大学教育の立場で支えるという重要な役割も担っています。そこでの教育・研究の実施に当たっては、国及び地方自治体、外部関係機関、産業界等との連携を図り、海洋に関する専門知識を深めるとともに、狭い専門領域にとらわれず俯瞰的かつ総合的に海洋の問題を考えることのできる人材を育成し、産業社会や公共サービスへの多様な人材ニーズに応えることを目標にしています。

本センターの海洋教育・研究の大きな特徴は、船舶海洋工学、沿岸防災、海洋環境科学など海に関わる理工学分野の研究者のみならず、政策・法制・経済など社会科学分野にも海洋研究で高く評価される実績を持つ研究者を擁し、社会科学を専攻する学生には産業活動における海洋科学・工学の視点を、また理工学を専攻する学生には地域社会や国内・国際社会を律する政策や法制度が技術に与えるインパクトを理解できる素養を育むことなどです。2008年度からは、文部科学省特別教育研究経費及び外部資金としての日本財団助成をはじめ学長裁量経費等の学内予算措置も得ることができ、カリキュラム開発事業も軌道に乗ってまいりました。

2009年前期の時点で第2期のカリキュラムを実施中ですが、37名の大学院生が本プログラムを履修しており、2009年3月には第1期生の13名に副専攻修了証を授与し、最初の修了生として送り出すことができました。また、本センターのプログラム特設科目（必修コア科目）「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」は公開講座としており、本学の学生以外にも約20名の社会人が熱心に聴講しています。さらに、各部局における兼務教員が実施している関連科目も多数に及んでいます。これらの本センターの活動を担う教員としては、全ての大学院研究科・研究院に亘る海洋を専門領域とする約35名の兼務教員のほか、特任教員（教授、研究教員各1名）および客員教授3名を配置して教育研究体制の整備を鋭意進めています。

国の最近の施策を見ても、「海洋基本計画」にもとづいて「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」が今年3月に策定され、「海洋管理のための離島の管理・保全に関する基本方針（仮称）」も打ち出されてくる予定です。他方、「科学技術基本法」にもとづく「第3期科学技術基本計画」が進行中で、そこでも海洋分野が重要な位置付けを与えられています。また、「水産基本計画」や「環境基本計画」、「生物多様性国家戦略」なども海洋問題に密接な関係を持っています。こうした海洋に関する国全体としての幅広い取り組みに対応して、本センターとしても文理融合型大学院教育の更なる拡充に努める所存です。

本センターのこうした活動に対するご要望やご意見がありましたら、是非お寄せいただくようお願いすると同時に、皆様の温かいご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

2009年9月

1. 統合的海洋教育・研究センターの概要

1-1. 統合的海洋管理プログラムの基本的構成

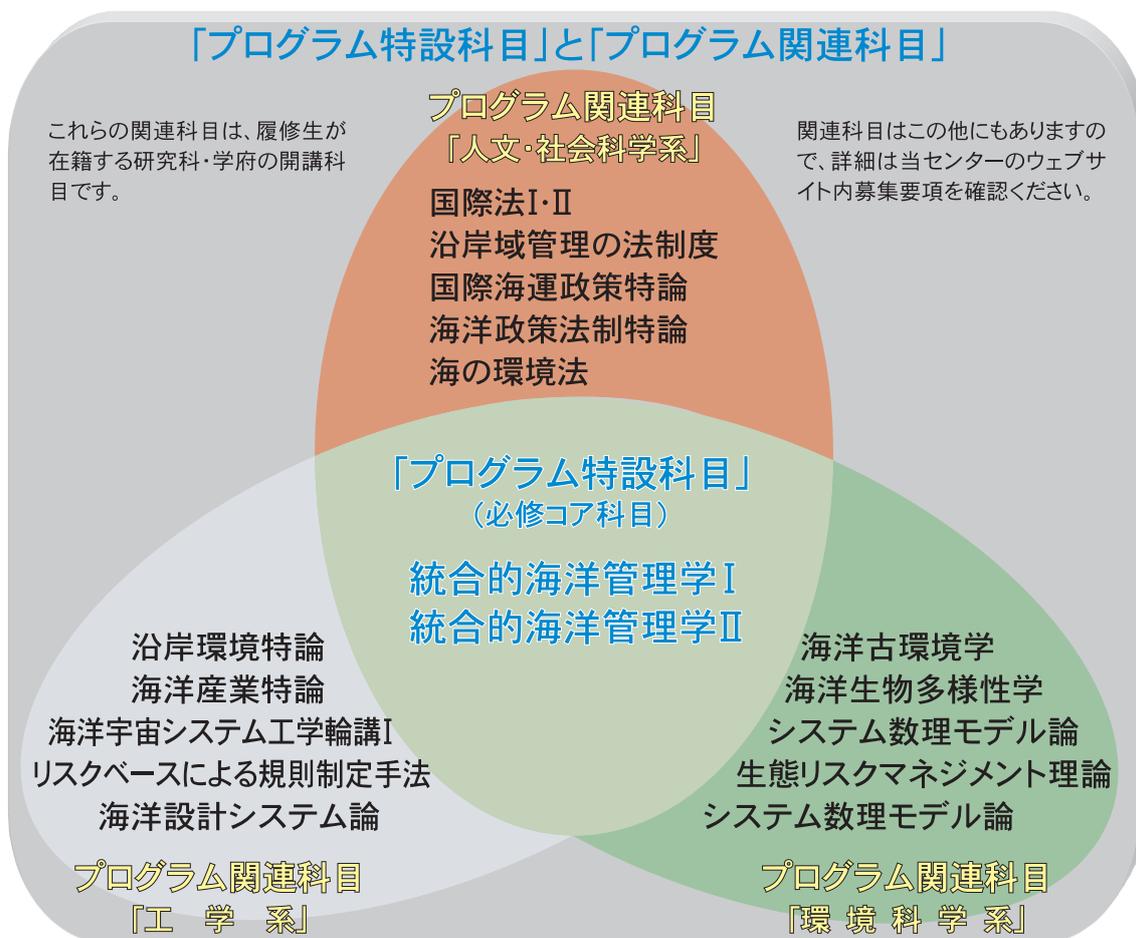
横浜国立大学は、2007年6月に、部局横断的な文理融合型組織「統合的海洋教育・研究センター」(略称:海センター)を設立し、大学院副専攻プログラムとして、大学院レベルでの海洋に関する専門知識を深めるとともに、狭い専門領域にとらわれず俯瞰的かつ総合的に海洋の問題を考えることのできる人材育成に向けた教育・研究に取り組んでいる。その全体概要は次のとおりである。

<統合的海洋管理プログラム>

2007年10月から総合的な大学院レベルでの副専攻プログラムを実施している。本プログラムの構成は次図に示すとおりで、「プログラム特設科目(必修コア科目)」として『統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ』があり、それを取り巻くかたちで学内の各研究科・学府に人文・社会科学系、工学系、環境科学系の「プログラム関連科目」約30がある。

本プログラムの修了者には、副専攻『統合的海洋管理プログラム修了証』が授与される。

<統合的海洋管理プログラムの基本的構成>



(注)上記の関連科目は2007-08年度の第2期プログラムのものである。

1-2.統合的海洋管理プログラムの活動経緯

統合的海洋管理プログラムは、副専攻必修のプログラム特設科目である「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」を中心に、各研究科・学府でのプログラム関連科目からなるが、本プログラムの主な活動経緯を示すと次のとおりである。

<統合的海洋管理プログラムの活動経緯>

	2007(H19)年度		2008(H20)年度		2009(H21)年度		2010(H22)年度[予定]	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第1期	6月 海 センター 設立	第1期 (2007後期+2008前期)						
	7月20日 海洋基本 法施行	(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅰ	(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅱ	ポスター セッション (第1期 修了証 授与)				
		(関連科目)	(関連科目)					
第2期			第2期 (2008後期+2009前期)					
			(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅰ	(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅱ	ポスター セッション (第2期 修了証 授与)			
			(関連科目)	(関連科目)				
第3期					第3期 (2009後期+2010前期)		(第4期へ)	
					(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅰ	(特設科目) 統合的海洋 管理学Ⅱ	ポスター セッション (第3期 修了証 授与)	
					(関連科目)	(関連科目)		
公開 シンポ ジウム 等		11.3 センター開 設記念シンポジ ウム(大学会館) [注4のシリーズ 第4回]		12.9 「東京湾を 知る、守る、利 用する」シンポ ジウム(開港記 念会館)[注4の シリーズ第6回]		11.14「海の神秘 を探る」シンポ ジウム(開港記 念会館)学創立60 周年記念[注4 のシリーズ第7 回]		
		3.21 「統合的 海洋教育の将来」 国際シンポジウ ム(パンパシ フィックホテル横 浜)[注4のシリ ーズ第5回]						

(注1)「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」は、いずれも本学における公開講座として学外者の聴講も受け入れています。

(注2)「プログラム特設科目」は本副専攻の必修で、「プログラム関連科目」は学内の各部局兼務教員により行われ、人文社会科学系、工学系、環境科学系で構成されるカリキュラム。科目名等は別掲を参照。その一部は公開講座となっています。

(注3)学内対象シンポジウムとしては、「海事・海洋産業の動向セミナー」があります。別掲参照。

(注4)「海センター」創設以前より、本学では「横浜から海洋文化を育む」シンポジウム・シリーズを実施しています。

第1回 「新たな海の世界に向けて」(2006.7.5)

第2回 「東京湾の利用と環境を考える」(2006.11.6)

第3回 「対立と協調の海」(2007.4.13)

2. 教育活動

2-1. 「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」

2-1-1. カリキュラム

本プログラムの特設科目で副専攻必修コア科目である「統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱ」のカリキュラムは次のとおりである。

(1) 第1期: 2007(H19)年度後期+2008(H20)年度前期

統合的海洋管理学Ⅰ 2007(H19)後期開講

講義タイトル・講師

講義室： 横浜国立大学環境情報研究院
環境情報棟1号棟306号室

講義回	区分	講義日 月曜日	講義 タイトル	講師 (敬称略)	
				所属	講師名
1	序論	10/15	海と人間生活	横浜国大 理事・副学長	來生 新
2	Ⅰ 海を知る	10/22	海と地球の歴史	横浜国大 教育人間科学部	間嶋 隆一
3		10/29	海の物理	横浜国大 工学研究院	伊藤 公紀
4		11/5	海の化学	横浜国大 教育人間科学部	杉村 秀幸
5		11/12	海の生物	横浜国大 教育人間科学部	菊池 知彦
6		11/19	水産資源の 利用と可能性	水産総合研究 センター中央 水産研究所	牧野 光琢
7	Ⅱ 海を利用する	11/26	海底資源の 利用と可能性	海洋政策研究 財団	福島 朋彦
8		12/3	海洋利用の 産業活動	社団法人 海洋産業研究会	中原 裕幸
9		12/10	海上輸送の 歴史と将来	(株)商船三井	吉本 亜土
10		12/17	造船技術の 歴史と将来	横浜国大 工学研究院	荒井 誠
11		(2008) 1/7	港湾開発の 歴史と将来	横浜国大 国際社会科学 研究科	池田 龍彦
12		1/21	海のレジャーと レクリエーション	横浜国大 国際社会科学 研究科	加藤 峰夫
13		Ⅲ 海洋 教育	1/28	海を教える	海洋政策研究 財団
14		2/4	総合討論①		
15		2/18	総合討論②		

統合的海洋管理学Ⅱ 2008(H20)前期開講

講義タイトル・講師

講義室： 横浜国立大学環境情報研究院
環境情報棟1号棟314号室

講義回	区分	講義日 月曜日	講義 タイトル	講師 (敬称略)	
				所属	講師名
1	Ⅴ 海を管理する	4/21	海洋政策概論	社団法人 海洋産業研究会	中原 裕幸
2		4/28	海事活動の国際 管理	国土交通省 海事局	安藤 昇
3		5/12	大陸棚と領海の 管理	海洋政策研究 財団	寺島 紘士
4		5/19	海洋の安全保障	世界平和研究所	八木 直人
5		5/26	海洋の環境管理	鳥取環境大学	加々美 康彦
6	Ⅵ 海を守る	6/2	持続可能な 水産業の姿	横浜国大 環境情報研究院	松田 裕之
7		6/9	海事技術による 環境影響の軽減	横浜国大 工学研究院	角 洋一
8		6/16	海底の地盤環境 と 資源開発	横浜国大 工学研究院	谷 和夫
9		6/23	海を守る海洋 土木・建設	横浜国大 工学研究院	柴山 知也
10		6/30	沿岸の利用と 環境保全	横浜国大 環境情報研究院	村井 基彦
11		7/7	沿岸海域の汚濁 と環境再生	横浜国大 工学研究院	佐々木 淳
12		7/14	海洋環境の再生	NPO法人 海辺づくり研究会	林 しん治
13		7/23	日本の海洋・ 沿岸域関係制度	横浜国大理事・ 副学長	來生 新

	2009 (H21) 2.23	ポスターセッション(第1期修了証授与へ)
--	-----------------------	----------------------

(注) 各講義は映像として記録しており、配布テキストとともに、海センター事務室にて保管しているので利用可能である。

(2)第2期:2008(H20)年度後期+2009(H21)年度前期

統合的海洋管理学Ⅰ
2008(H20)後期開講

講義タイトル・講師

講義室：横浜国立大学環境情報研究院
環境情報棟1号棟314号室

講義回	区分	講義日		講義 タイトル	講師 (敬称略)	
		月	曜日		所属	講師名
1	0 序論	10/20		海と人間生活	横浜国大 理事・副学長	來生 新
2	Ⅰ 海を知る	10/27		海と地球の歴史	横浜国大 教育人間科学部	間嶋 隆一
3		11/10		海の物理	横浜国大 工学研究院	伊藤 公紀
4		11/17		海の化学	横浜国大 教育人間科学部	杉村 秀幸
5		12/1		海の生物	横浜国大 教育人間科学部	菊池 知彦
6		12/8		水産資源の 利用と可能性	水産総合研究 センター中央 水産研究所	牧野 光琢
7	Ⅱ 海を利用する	12/15		海底資源の 利用と可能性	海洋政策研究 財団	福島 朋彦
8		12/22		海のレジャーと レクリエーション	横浜国大 国際社会科学 研究科	加藤 峰夫
9		(2009) 1/19		海上輸送の 歴史と将来	(株)商船三井	吉本 亜土
10		1/26		造船技術の 歴史と将来	横浜国大 工学研究院	荒井 誠
11		2/2		港湾開発の 歴史と将来	横浜国大 国際社会科学 研究科	池田 龍彦
12		2/9		海洋政策概論(1)	横浜国大 統合的海洋 教育・研究 センター	中原 裕幸
13	Ⅲ 教育 海洋	2/16		海を教える	東京大学 海洋アライアンス	福島 朋彦
14		2/23		総合討論	第1期生ポスターセッション に参加、討論・意見交換	

統合的海洋管理学Ⅱ
2009(H21)前期開講

講義タイトル・講師

講義室：横浜国立大学 教育文化ホール
地下1階 中集会室

講義回	区分	講義日		講義 タイトル	講師 (敬称略)	
		月	曜日		所属	講師名
1	Ⅴ 海を管理する	4/13		海洋政策概論(2)	横浜国大 統合的海洋 教育・研究 センター	中原 裕幸
2		4/20		日本の海洋・沿 岸域関係制度	前・横浜国大 理事・副学長	來生 新
3		4/27		海事活動の国際 管理	国土交通省 海事局	秋田 務
4		5/7		管轄海域(領海、 排他的経済水 域、大陸棚)の 管理	海洋政策研究 財団	寺島 紘士
5		5/11		海洋の安全保障	防衛大学校	八木 直人
6		5/18		海洋の環境管理	鳥取環境大学	加々美 康彦
7	Ⅵ 海を守る	5/25		海事技術による 環境影響の軽減	横浜国大 工学研究院	角 洋一
8		6/8		持続可能な水産 業の姿	横浜国大 環境情報研究院	松田 裕之
9		6/15		海底の地盤環境 と資源開発	横浜国大 工学研究院	谷 和夫
10		6/22		海を守る海洋 土木・建設	横浜国大 工学研究院	佐々木 淳
11		6/29		沿岸の利用と 環境保全	横浜国大 環境情報研究院	村井 基彦
12		7/6		沿岸海域の汚濁 と環境再生	横浜国大 工学研究院	佐々木 淳
13		7/13		海洋環境の再生	NPO法人 海辺つくり研究会	林 しん治
14			7/23		総合討論*	

*この時の「総合討論」は、履修生による研究テーマのプレゼンと討論・意見交換。

(注)各講義は映像として記録しており、配布テキストとともに、海センター事務室にて保管しているので利用可能である。

2-1-2. 第1期修了者研究テーマ一覧（ポスターセッション発表）

第1期修了者は13名で、2009年2月23日(月)、中央図書館1階の情報ラウンジでポスターセッションを実施した。学会発表におけるポスターセッション形式と同様に、履修生がそれぞれの研究テーマについて1枚のポスターにその要旨を掲示し、一定時間ポスター前に立ち質疑や意見交換を対話型で直接行うものである。

今回のポスターセッションの見学・参加者は、第2期履修生、教員、公開講座の聴講生、その他一般市民等、あわせて約40名と盛況であった。

第1期修了者研究テーマ一覧（ポスターセッション発表）

	氏名	所属	専攻	指導教員	研究テーマ
1	K. A	環境情報研究院	環境生命学	菊池 知彦	伊勢湾三河湾のミズクラゲ発生機構の解明
2	I. A	工学研究院	システム統合工学	平山 次晴	WISES(海面効果翼船)について
3	G. A	工学研究院	社会空間システム学	佐々木 淳	内湾における有機汚泥底質の形成過程と予測
4	N. I	環境情報研究院	環境生命学	菊池 知彦	マングローブ サンゴ礁移行域におけるメイオベントス群集の時間分布
5	S. I	工学研究院	社会空間システム学	佐々木 淳	浚渫窪地の環境影響の解明と環境管理手法の提案
6	R. I	環境情報研究院	環境生命学	菊池 知彦	渦鞭毛藻 <i>Ceratium Furca</i> と <i>CeratiumFusus</i> の含有色素に関する生理生態学的研究
7	H. K	工学研究院	社会空間システム学	柴山 知也	第3世代波浪水産モデルによる高潮氾濫リスクの研究
8	Y. K	国際社会科学部研究科	国際関係法	池田 龍彦	マラッカ海峡における海賊対策
9	S. K	工学研究院	社会空間システム学	柴山 知也	養浜に対する実用的な海洋変形モデルの提案
10	M. T	工学研究院	社会空間システム学	佐々木 淳	大都市内湾流域圏におけるマクロ物質循環の将来予測
11	K. T	工学研究院	社会空間システム学	柴山 知也	波浪の平面的変動特性に着目した信頼性設計に関する研究
12	M. N	工学研究院	社会空間システム学	柴山 知也	高波、津波、洪水になどによる挙動予測とリスクマネジメントに関する研究
13	R. M (博士)	環境情報研究院	環境生命学	菊池 知彦	相模湾真鶴半島沿岸域に出現するウミシダ類の分布生態と生活史に関する研究

(注)修了生の氏名は、個人情報保護の関係で頭文字表記にしてある。



第1期修了生によるポスターセッションの様子(2009年2月23日、中央図書館1階情報ラウンジ)

<副専攻修了証>



2-2. プログラム関連科目一覧（公開講座とも）

第1期・第2期共通 開講学府	〔「統合的海洋管理学」を「管理学」と略記〕 科目名
教育学研究科	動物発生学演習
	地球化学演習
	地史学演習
	有機合成化学演習（第1期「管理学Ⅰ」期開講）
教育学研究科・環境情報研究院	臨海実習*
国際社会科学部	国際法Ⅰ
	国際法Ⅱ
	沿岸域管理の法制度（第2期「管理学Ⅰ」期開講）
	国際海運政策特論（第2期「管理学Ⅰ」期開講）
	海の環境法（第2期「管理学Ⅰ」期開講）
	海洋政策・法制特論（第2期「管理学Ⅱ」期開講）**
工学研究院	海岸・海洋波動力学
	地球工学特論
	沿岸環境特論
	数値流体解析学
	リスクベースによる規則制定手法
	海洋設計システム論
	耐風工学特論
	海洋宇宙システム工学輪講Ⅰ
	Advanced Theory of Earth Engineering
	海洋産業特論（第2期「管理学Ⅱ」期開講）***
環境情報研究院	海洋生物多様性学
	立地群落学
	生態リスクマネジメント理論
	システム数理モデル論
	計算流体力学概論
	水域環境生物学
	水生生態系マネジメント論
	構造物安全設計学
	海洋古環境学
	空間利用工学（第1期「管理学Ⅱ」期のみ）

* 臨海実習は神奈川県真鶴町にある理科教育実習施設で実施。同施設では相模湾の海洋生物学的研究を行うとともに、大学院生・学部学生の修士論文・卒業論文研究を行う場となっている。また、初等中等教育の理科担当教員の研修や真鶴町を中心とした児童生徒の自然観察の場としても開放されている。

** 海センター特任教授による開講科目

*** 同 客員教授による開講科目。

(注) 斜体で表記の「沿岸域管理の法制度」と「海洋政策・法制特論」は公開講座。

2-3. 履修生アンケート結果

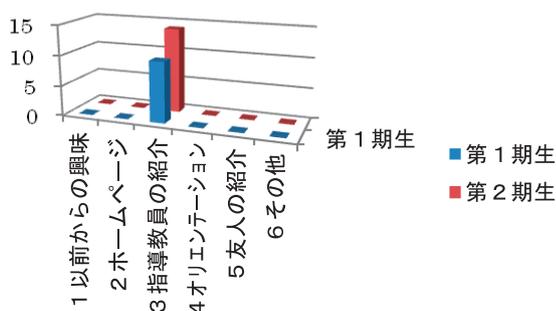
本アンケートは、本プログラムの第1期および第2期の履修生を対象にして統合的海洋管理学プログラムについての感想、意見およびコメント等を収集したものである。その目的は、履修者の生の声にもとづいて学務委員会において次年度以降の取り組みに関して改良を加える際の参考にすることである。

第1期のアンケート結果は第2期のそれの分析に含まれているので、ここでは第2期アンケートの結果の概要を抜粋紹介する。なお、自由記入式設問に関する回答結果は割愛する。

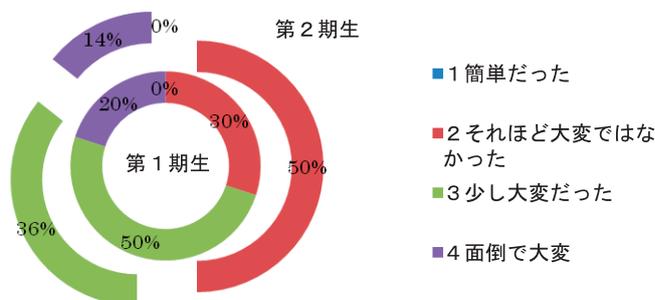
第2期生回答集計

(回答 14 名 / 履修生 17 名)

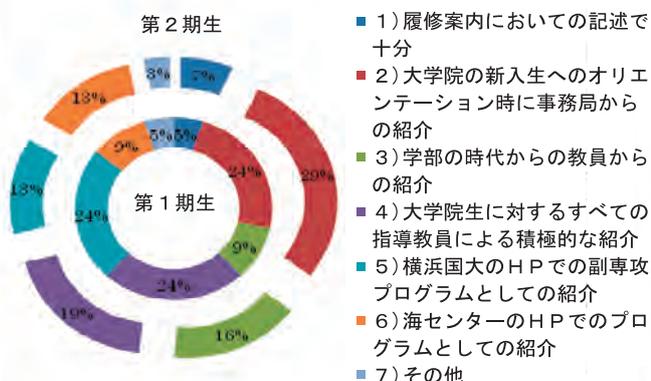
Q1. 履修の動機



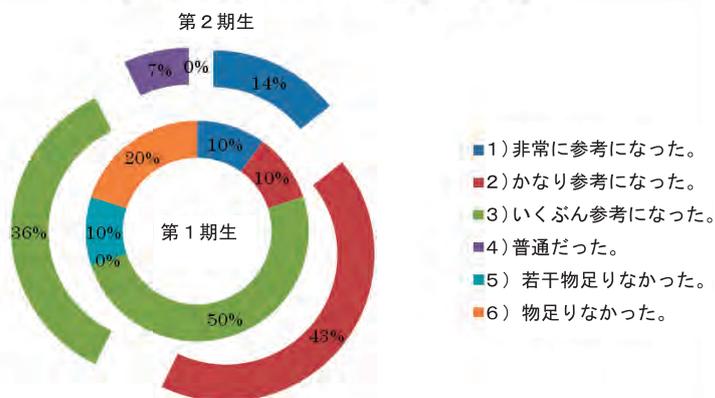
Q2. 履修者募集の方法



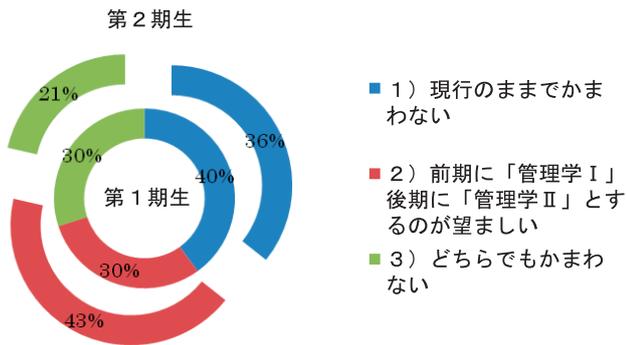
Q3. 今後の募集方法



Q4. プログラム全体の評価

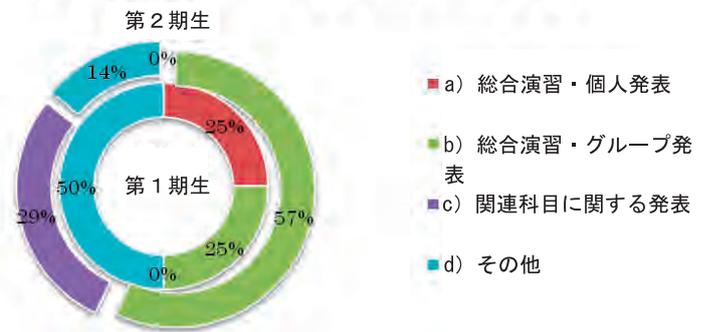


Q5-1. プログラムの進め方

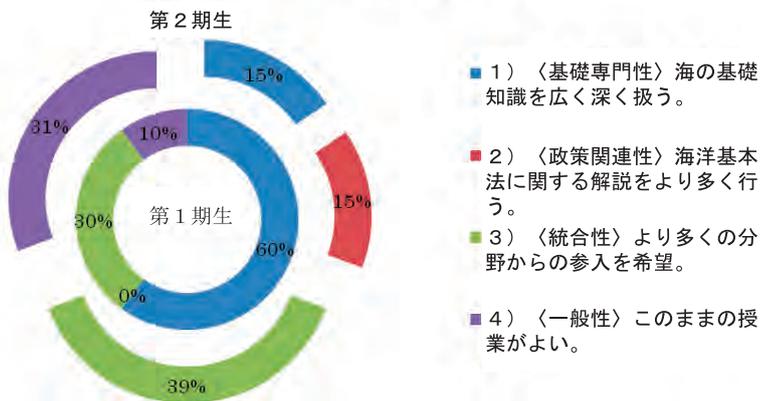


Q5-2. 修士2年目のあるべき姿

前問2) の場合： 一般学年への統合を希望

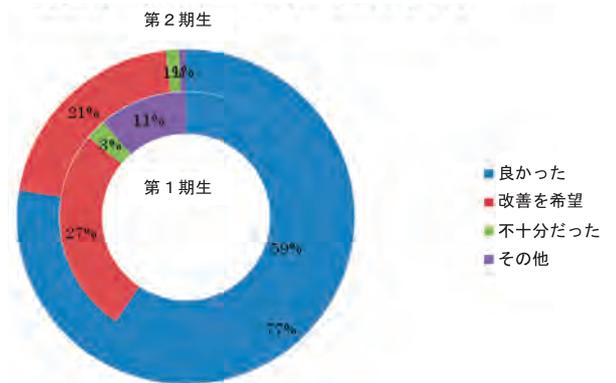


Q6. プログラム全体構成



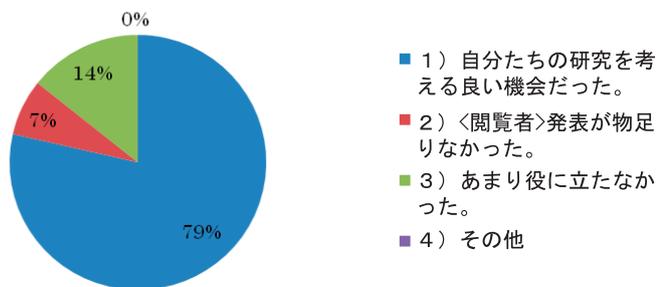
講師全員の総合評価

第2期 2009年10月～2009年3月



Q8. ポスターセッション(閲覧者)

第2期生



Q9. 海外派遣について



2-4. 学生海外短期派遣事業

2-4-1. 事前調査

本調査は、平成 21 年度から行う予定であるプログラム履修生の海外短期派遣事業のため、派遣先候補として選定した受け入れ機関の現地調査および事前調整を目的としたものである。想定期間は 2009 年 8 月～2010 年 3 月の間の数ヶ月で、想定派遣学生数は第 2 期の履修生 17 名中の希望者若干名である。以下、調査訪問先別に概要を示す。

(1) アメリカ：メリーランド大学、デラウェア大学

調査訪問日 2008 年 8 月 22 日、26 日

調査訪問者 統合的海洋教育・研究センター特任教員（研究教員） Compel Radomir

調査訪問先 メリーランド大学 MEES (Marine Estuarine and Environmental Sciences)

同 CES (Center for Environmental Studies)

同 DCEE (Department of Civil and Environmental Engineering)

デラウェア大学 College of Marine and Earth Studies

Mangone Center for Marine Policy

Center for Applied Coastal Research

(2) イギリス：サザンプトン大学／デンマーク：デンマーク工科大学 (DTU)

調査訪問日 2008 年 8 月 28-29 日

調査訪問者 大学院工学研究院 教授 川村恭己

調査訪問先 サザンプトン大学 School of Engineering Science

School of Civil Engineering and Environment

Institute of Sound and Vibration Research

School of Law, Institute of Maritime Law

(School of Ocean and Earth Sciences)

デンマーク工科大学 DTU Aqua (National Institute of Aquatic Resources)

DTU MEK (機械工学科)

(3) 中国：上海交通大学

調査訪問日 2008 年 12 月 3-6 日

調査訪問者 大学院工学研究院 教授 荒井 誠

調査訪問先 上海交通大学 船舶・建築工学院 (船舶・海洋、土木、建築)

調査結果 いずれの大学も短期留学派遣先として認められ、相手側も受け入れ可能と考えられる。

2-4-2. 海外派遣の希望に関するアンケート

本プログラム履修生の海外短期派遣事業を実施するため、2009 年 2 月 9 日、2 月 16 日、3 月 14 日の 3 回にわたって、第 2 期履修生を対象に海外留学の希望についてアンケートを実施した。

結果は、「1-4. 履修生アンケート」の Q 8 にあるとおりで、意欲は求められるが、金銭的な問題と時期の適合性、さらには語学力の問題が若干の制約要因になっている。しかしながら、2009 年夏季に 2-3 名の学生の派遣を行う予定である。

3. 研究活動

3-1. シンポジウム

3-1-1. 経緯

本学では、海センター創設以前の2006年より「横浜から海洋文化をはぐくむ」と題するシンポジウム・シリーズを以下のように開催してきた。

◎第1回:「新たな海の世界に向けて」(2006年7月5日)

◎第2回:「東京湾の利用と環境を考える」(2006年11月6日)

◎第3回:「対立と協調の海」(2007年4月13日)

海センター創設後のシンポジウムは次のとおりである。

◎第4回:「統合的海洋教育・研究センター設立」記念シンポジウム(2007年11月3日)

◎第5回:「統合的海洋教育の将来」国際シンポジウム(2008年3月21日)

◎第6回:「東京湾を知る、守る、利用する」(2008年12月9日)

以下、第6回の開催概要を記す。

3-1-2. 第6回シンポジウム「東京湾を知る、守る、利用する」の概要

○日時:2008年12月9日(火) 13:30~17:30 シンポジウム(18:00~19:30 交流会)

○場所:横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1-6、Tel:045-201-0708)

○主催:横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター

○後援:文部科学省 / 神奈川県 / 横浜市

○協力:(財)シップ・アンド・オーシャン財団(海洋政策研究財団) / 土木学会海洋
開発委員会 / 日本沿岸域学会 / 日本水産学会 / 日本船舶海洋工学会

○参加費:無料(ただし、交流会は会費制;一人様3,000円。)

《プログラム》

[司会:統合的海洋教育・研究センター特任教員(教授) 中原 裕幸]

1. 開会挨拶……………横浜国立大学学長 飯田 嘉宏

2. 来賓挨拶……………内閣官房総合海洋政策本部事務局長、内閣審議官 大庭 靖雄
横浜市港湾局長 川口 正敏

3. 講演

(1)「東京湾漁業:今と昔(資源保護と管理)」

……………横浜市漁業協同組合代表理事組合長 小山 紀雄

(2)「東京湾の総合的管理に向けた一考察」

……………東京湾環境をよくするために行動する会理事・幹事長 /
(財)港湾空間高度化環境研究センター専務理事
兼港湾・海域環境研究所長 細川 恭史

(3)「東京湾の沿岸防災」

……………横浜国立大学工学研究院教授 柴山 知也

4. パネルディスカッション

◇コンビーナ 松田 裕之 横浜国立大学環境情報研究院教授

◇パネリスト 黒萩 真悟 前水産庁沿岸沖合課課長補佐

下村 直 横浜市港湾局港湾整備部長

本田 直久 内閣官房総合海洋政策本部事務局参事官

小山 紀雄 (前掲)

細川 恭史 (前掲)

柴山 知也 (前掲)

5. 閉会挨拶……………横浜国立大学統合的的海洋教育・研究センター長 角 洋一

※ 交流会 (18:00~19:30)

3-1-3. 成果

- 当日雨のせいもあってか、当初想定には届かなかったものの、110名を超える参加者数となった。うち、交流会参加者46名、アンケート回収47名。
- 来賓の大庭・内閣官房総合海洋政策本部事務局長は、急に総理レクが入ったため欠席となり、挨拶文はパネリストとして来場していた同本部事務局の本田参事官が代読した。
- プログラム、講師陣構成など、本シンポジウムの企画内容は時宜にかなったもので、なおかつ非常に充実したものとして計画することができた。
- 3つの講演は、漁業・環境・防災の三テーマで、それぞれ内容が濃く、好評を得た。
- 第1講演は地元漁業協同組合長によるもので、横浜・神奈川の目の前の海における漁業の実態について日頃知り得ない貴重な話で大なる感銘を与えた。東京湾の環境に関する第2講演は、動画を交えた分かりやすい内容に注目が集まり、第3講演の防災に関する話は本学教員による貴重な研究活動の紹介で社会への貢献を行っていることを広く知っていただくことができた。
- パネルディスカッションは豊富なトピックにまたがった意見交換で、時間が不足してしまっただが、海域利用調整、港湾利用、沿岸域総合管理の視点からのパネリストの討議など、充実した内容だった。もっと時間があればそれだけ充実したものとなったであろうと聴衆も感じたようで、結果として、物足りなかったとの感想が多く含まれていた。
- アンケートは、講師・パネリスト・主催者などを除く参加者のうち、実に50%を超える方々から回答をいただいた。しかも自由記述設問について、休憩時間も少なく書き込む時間的余裕が必ずしもなかったにもかかわらず、多くの記述回答をいただいた。横浜国大海センターの今後の活動に期待するものや、もっと広く活動を知ってもらったら良いなど、示唆に富んだものが多かったので、今後の活動の糧としたい。
- 終了時には土砂降りとなり、シンポジウム会場から場所が少し離れていたにもかかわらず、交流会にはシンポジウム参加者の4割以上の方々が参加し、講師陣を交えて幅広く交流、懇談を重ねたことは非常に有意義だった。

横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター
 シンポジウム「東京湾を知る、守る、利用する」
 (平成20年12月9日、於:横浜市開港記念会館)

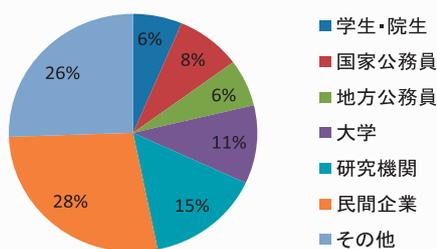
アンケート調査結果

(n:本設問回答者数、N:回答総数)

◎アンケート回答者 …………… 47人(51.1%)

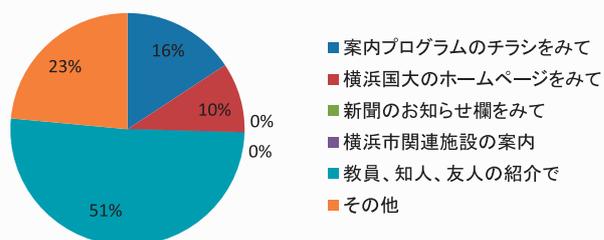
◎アンケート回答内容〔抜粋〕 (n=47、N=51)

所属



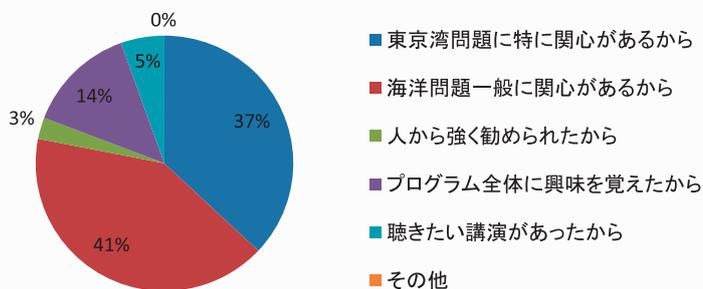
(n=47人、N:回答総数=73)

知ったきっかけは？



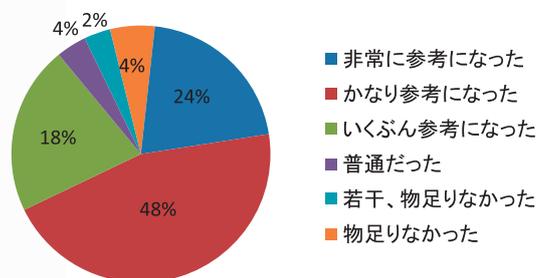
(n=46)

参加した理由



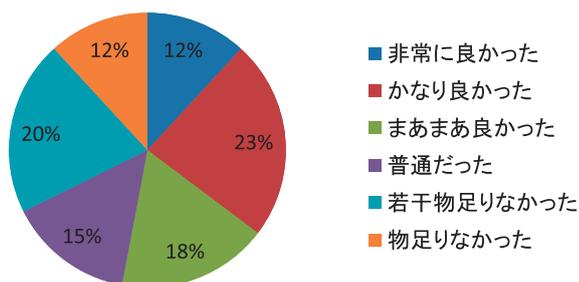
(n=34)

講演はどの程度参考になりましたか

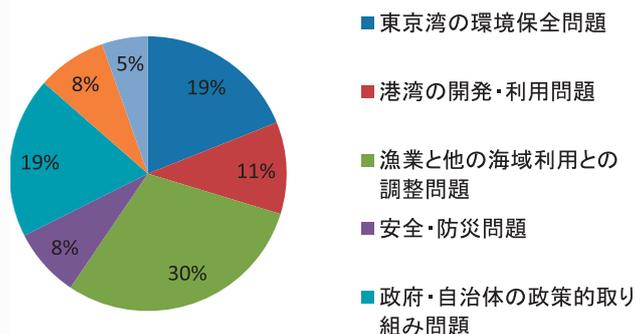


(n=24人、N=37)

パネル・ディスカッションの評価



特に参考になったテーマ





(写真:2008年12月9日のシンポジウムの様子)(於:横浜市開港記念会館)

3-2. 学内セミナー「海事・海洋産業の動向セミナー」

3-2-1. 開催趣旨と開催要領

2007年に成立した海洋基本法に基づく海洋基本計画において海洋産業の振興が謳われているが、海洋に係る人々の間でもその実体や将来性についての具体的なイメージが共有されているとは言い難い。そこで、まずは海センターの専任・兼務教員や一般教員を対象に、数名の海事産業、海洋産業の関係有識者を招いて海事・海洋産業の実態や産業と技術の関わりについて話題を提供していただき意見交換を行う事を目的として、小澤宏臣・海センター客員教授が企画して学内セミナー「海事・海洋産業の動向セミナー」を実施した。

3-2-2. 開催概要

《2008(H20)年度》

第1回 海事・海洋産業の動向セミナー

—演 題:「最近の造船・海運産業の動向(日本造船業の現状と課題)」

—講演者: 桐明公男氏(日本造船工業会事務局長、現常務理事)

—日 時: 2008年11月21日(金)16:00—17:00

—場 所: 工学研究院 船舶海洋工学棟2階212会議室

—トピックス: 世界造船業の概観、造船と海運のサイクル／世界海上荷動き量の推移、世界船種別船腹量の推移／・実質船主国籍別シェア 2007 年、国別解撤量の推移／タンカー運賃の傾向、タンカー新造船価の傾向／バルクキャリア運賃の傾向、バルクキャリア新造船価の傾向／・米国金融危機の影響、株価と金融危機／鉄鉱石の日中輸入量 2006 年、バルチック海運指数／世界地域別受注量の推移、世界地域別竣工量／造船労働力の推移、造船技能職の年齢構成／・日本造船業がグローバルな競争に対応するための方策／日本造船工業の経営基盤、技術基盤、国際協調の各課題に対する対応策。

第2回 海事・海洋産業の動向セミナー

—演 題:「海運における環境負荷低減への技術的取組」

—講演者: 日本郵船(株)技術グループ長 田中康夫氏／

(株)MTI技術戦略グループPM 坂本宗彦氏

一日 時:2009年1月29日(木)17:00-18:30

一場所:工学研究院 船舶海洋工学棟2階212会議室

トピックス:NYK Corporate Profile／・海運は環境にやさしい輸送モード ?／外航海運からのCO2 排出量／NYK の CO2 排出量 NYK Cool Earth Project の目標:成長と環境の両立／・International Trends in Global Warming／EMISSION ZERO への道／50%省エネ自動車船・太陽光発電の活用／・Cold Ironing (AMP System)・Fuel-Efficient Governor／Energy Saving(Ave. 1.34%) Improvement of Fuel oil consumption Combustion Equipment for Water-Emulsion Fuel／Onboard Trial on 88BC／電子アブログ情報システム (SPAS)／燃費計 (FUELNAVI)等／・Energy Saving Fin／Air Lubrication 等／“MTI”: Monohakobi Technology Institute の紹介

《2009(H21)年度》

2009(H21)年度については、工学研究院における海センター関連科目「海洋産業特論」を新たに立ち上げ、毎週の講義を行ったが、外部からのゲストスピーカーを招聘した後半の講義については、前年度と同様に教員等にも開放して、学内セミナーの継続版として実施したので、その部分の概要を以下に示す。

2009(H21)年度 関連科目「海洋産業特論」のうち
「海事・海洋産業の動向セミナー」として実施したもの

月日	講師及び演題	主要トピックス	備考
6月2日	日本郵船(株)技術グループ 技師長 川嶋民夫 氏 「海運の技術開発動向」	国際海上輸送の推移／CO2 削減限界コスト／船舶の技術革新／運航物流の改革／IMO の動向／NYK の取り組み／NYK Super Eco Ship 2030／海運業界技術者の役割	NYK Super Eco Ship 2030 の DVD を紹介
6月9日	(株)海洋工学研究所 代表取締役 佐尾邦久 氏 「海洋石油開発技術Ⅰ」	海洋石油とは／海洋石油の探査技術／物理探査船／海洋石油の掘削技術／大水深石油掘削リグ／海洋石油の開発技術／FPSO、ROV、TLP、GOM／海洋石油の生産技術	海洋工学ハンドブック CD 版 (JOGMEC) 配布
6月16日	(株)海洋工学研究所 代表取締役 佐尾邦久 氏 「海洋石油開発技術Ⅱ」 独)海上技術安全研究所 運航・システム部門長 田村兼吉 氏 「海洋開発におけるリスク評価」	天然ガス開発と日本の技術／天然ガス埋蔵量／輸送手段／LNG-FPSO／21世紀の開発動向／FLNG の開発展望 海洋開発におけるリスク評価の必要性／リスクの種類／リスク評価の手法／リスクマネジメントの海洋分野への適用／リスク評価手法としての FSA／FMEA と HAZOP／リスク評価の海洋分野への応用 (RBM と RBD)	
7月14日	大成建設(株)技術センター 土木技術研究所 主任研究員 伊藤一教 氏 「世界のビッグプロジェクトーボスポラス海峡横断鉄道トンネル工事ー」	ボスポラス海峡の問題点／海底沈埋トンネルの敷設プロジェクト／シールド工法と NATM 工法／沈埋トンネル工法／個別要素技術／海峡の潮流問題／水槽試験とリアルタイム潮流データシステム／沈埋工事の成功／歴史的埋蔵物の問題／完成を目指して	ボスポラス海峡横断鉄道トンネル工事 DVD 紹介

4. 活動日誌

◎海センター創設前の活動

「横浜から海洋文化を育む」シンポジウム・シリーズの開催

第1回 「新たな海の世界に向けて」(2006.7.5)

第2回 「東京湾の利用と環境を考える」(2006.11.6)

第3回 「対立と協調の海」(2007.4.13)

◎海センター関連活動日誌

以下に、海センター創設後の活動経緯を日誌で記す。

2007(H19)年度

月	主な出来事、行事等	海センター内活動	備考
平成19年 6月	統合的海洋教育・研究センター(略称:海センター)創設		
7月	20日 海洋基本法、施行	23日 第1回運営委員会 27日 学務委員会	
8月		17日 学務委員会 21日 第2回運営委員会	
9月		— 学務委員会(メール審議)	
10月	第1期:「統合的海洋管理学Ⅰ」開講 (10月15日~2月4日) (毎週月曜、第4限)	9-12日 第1期「統合的海洋管理学」履修登録受付 12日 第3回運営委員会	
11月	3日 センター開設記念シンポジウム開催* (後援:神奈川県・横浜市都市経営局) (於:横浜国大・大学会館)		*上記シンポジウム・シリーズ第4回
12月			
平成20年 1月		7日 第4回運営委員会	
2月		29日 第5回運営委員会 — 学務委員会(メール審議)	
3月	18日 海洋基本計画、閣議決定 21日 「統合的海洋教育の将来」国際シンポジウム開催* (於:パンパシフィックホテル横浜)	14日 学務委員会 31日 第6回運営委員会	*上記シンポジウム・シリーズ第5回

2008(H20)年度

月	主な出来事、行事等	海センター内活動	備考
4月	第1期:「統合的海洋管理学Ⅱ」開講 (4月14日～7月23日) (毎週月曜 第4限)	16日 第1回運営委員会	
5月	15日 (社)海洋産業研究会(海産研) と包括連携協定を締結	8日 教員選考委員会 13日 第2回運営委員会 16日 特任教員(教授)発令	
6月	1日 海産研と覚書締結、海センター 東京事務所開設 19日 JAMSTEC 訪問、連携協議	1日 特任教員(教員)発令 10日 第3回運営委員会 12日 教員選考委員会	
7月		1日 客員教授発令 8日 第4回運営委員会 10日 日本財団との定期協議 20日- 海外学生派遣先調査 9/4 (USA: マーランド大学・デラウェア ア大学)	
8月		27日- 海外学生派遣先調査 9/3 (UK: サザンプトン大学 デンマ ーク: デンマーク工科大学)	
9月		9日 第5回運営委員会 19日 講義映像収録システム検討会	
10月	第2期:「統合的海洋管理学Ⅰ」開講 (10月20日～2月23日) (毎週月曜 第4限)	1-15日 第2期「統合的海洋管理学」 履修登録受付 14日 第6回運営委員会	
11月	21日 第1回「海事・海洋産業の動向 セミナー」開催(学内対象)	11日 第7回運営委員会 17日 内閣官房総合海洋政策本部事 務局「海洋産業の活動状況に 関する調査」に応札(海産研と 協力)	
12月	9日 シンポジウム「東京湾を知る、 守る、利用する」開催* (後援: 文部科学省・神奈川県・横浜市) (於: 横浜市開港記念会館)	2日 日本財団との協議 3-6日 海外学生派遣先調査 (中国: 上海大学) 16日 第8回運営委員会	*上記シンポ ジウム・シリー ズ第6回
平成21年 1月	13日 海運造船新技術戦略寄附講座 第2回ミニシンポジウム「海事分 野における教育・研究を考える」 で角センター長が本学海センタ ーの取組を紹介講演 (於: 東大本郷キャンパス) 29日 第2回「海事・海洋産業の動向 セミナー」開催(学内対象)	6日 第9回運営委員会 6日 図書(教科書)委員会	
2月	23日 「統合的海洋管理学」第1期生 ポスターセッション (於: 附属図書館1階情報ラウンジ)	10日 第10回運営委員会	
3月	24日 海洋エネルギー・鉱物資源開発 計画、決定 26日 第1期生修了証授与	3日 第11回運営委員会	

2009(H21)年度

月	主な出来事、行事等	海センター内活動	備考
4月	第2期:「統合的海洋管理学Ⅱ」開講 (4月13日～7月23日) (毎週月曜 第4限) 新修士1年生向オリエンテーション	1日 客員教授発令 7日 第1回運営委員会	
5月		15日 第2回運営委員会	
6月		11日 学務委員会 17日 JAMSTEC 連携協定関係協議 25日 第3回運営委員会 25日 客員教授発令	
7月		13日 日本財団との協議 22日 日本財団監査 30日 第4回運営委員会 30日 学務委員会	
8月	10日 JAMSTEC 来訪、連携協議		

5. 財務報告

(単位:千円)

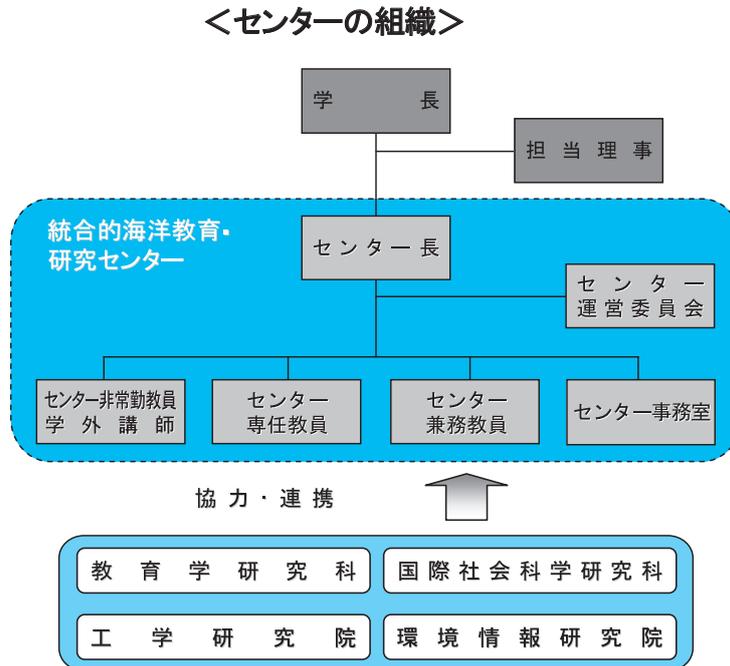
	2007(H19)年度	2008(H20)年度	2009(H21)年度
	金額	金額	金額
日本財団助成金等	5,000	29,000	28,700
文部科学省特別教育研究経費	0	14,000	14,000
学内負担金	2,000	5,700	4,600
合計	7,000	48,700	47,300

付 属 資 料

海センターの組織と教員一覧

〔付属資料:海センターの組織と教員一覧〕

〈平成 21 年 7 月現在〉



〈統一的海洋教育・研究センター教員一覧〉

以下に、海センターの教員一覧を示す。なお、各教員の政府関係機関での委員会参加状況、学会等への論文発表、協会・団体関係での役員・委員会活動、等々の社会的活動については、各人ごとのホームページに掲載されているので、それらを参照いただきたい。

センター長: 角 洋一 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000247/profile.html>

センター専任教員:

特任教員(教授) 中原 裕幸 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0027/0001704/profile.html>

特任教員(研究教員) コンペル ラドミール <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0027/0001705/profile.html>

センター非常勤教員:

客員教授 小澤 宏 臣

客員教授 來 生 新

客員教授 古 川 恵 太

センター兼務教員:

(大学院教育学研究科)

教授 種 田 保 穂 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0000251/profile.html>

准教授 河 瀧 俊 吾 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0001263/profile.html>

准教授 津 野 宏 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0001264/profile.html>

(大学院環境情報研究院)

教授 有 馬 眞 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000302/profile.html>

教授 菊 池 知 彦 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0000334/profile.html>

教授 益 永 茂 樹 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000428/profile.html>

教授 松 田 裕 之 <http://kenkyu-web.jmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000650/profile.html>

教授	間嶋隆一	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0000622/profile.html
教授	持田幸良	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0000060/profile.html
教授	山田均	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000281/profile.html
准教授	及川敬貴	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0001277/profile.html
准教授	白崎実	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0002/0001083/profile.html
准教授	村井基彦	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000091/profile.html
講師	仲岡雅裕	
講師	茂岡忠義	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0013/0000091/profile.html

(大学院国際社会科学研究科)

教授	荒木一郎	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0009/0000592/profile.html
教授	池田龍彦	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0009/0000510/profile.html
教授	加藤峰夫	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0009/0000340/profile.html
教授	田中利幸	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0009/0000264/profile.html
教授	柳赫秀	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0009/0000336/profile.html

(大学院工学研究院)

教授	荒井誠	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000374/profile.html
教授	伊藤公紀	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000083/profile.html
教授	勝地弘	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000444/profile.html
教授	川村恭己	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000413/profile.html
教授	佐々木淳	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000090/profile.html
教授	角洋一	(センター長、前掲)
教授	鈴木和夫	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000258/profile.html
教授	谷和夫	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000475/profile.html
教授	椿龍哉	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000277/profile.html
教授	平山次清	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000227/profile.html
准教授	甲斐寿	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0000378/profile.html
准教授	西佳樹	http://kenkyu-webjmk.ynu.ac.jp/Profiles/0010/0001643/profile.html

外部協力機関：

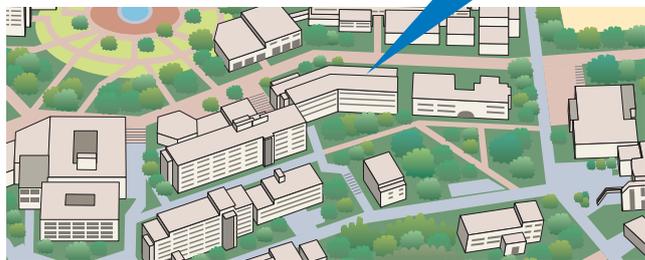
国土交通省／(独)海洋開発研究機構(JAMSTEC)／(独)水産総合研究センター／
(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)／(独)港湾空港技術研究所／
(独)海上技術安全研究所

放送大学／東京大学／青山学院大学／中部大学／防衛大学校

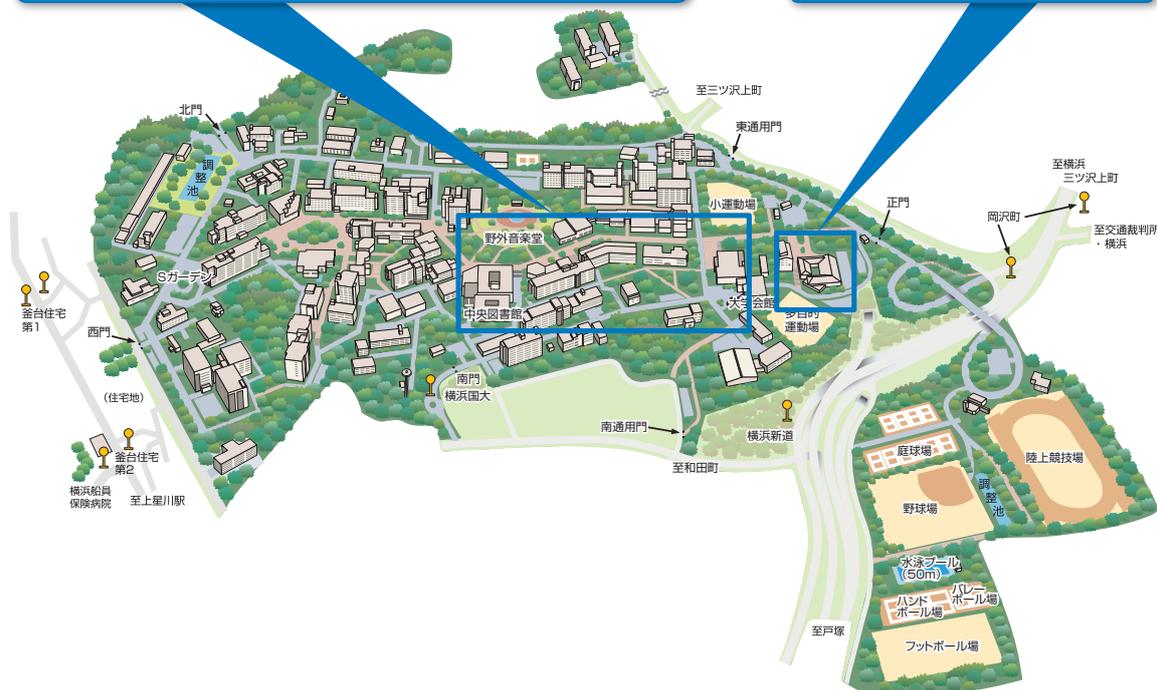
(社)海洋産業研究会／(財)シップ・アンド・オーシャン財団(海洋政策研究財団)／
(財)日本海事協会／NPO法人海辺つくり研究会

(株)商船三井／大成建設(株)／日本郵船(株)／三井造船(株)

**横浜国立大学
統合的海洋教育・研究センター**
(教育系総合研究棟Ⅱ(教育講義棟7号館)205号室)



「統合的海洋管理学」講義室
教育文化ホール
中集会室 (B1F)



《禁無断転載》

横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター
(略称：横浜国大海センター)

2009(平成21)年9月

〒240-8501 神奈川県保土ヶ谷区常盤台 79-5

Tel: 045-339-3067 (海センター事務局)

e-mail address : kaiyo@ynu.ac.jp

URL : <http://www.cosie.ynu.ac.jp/>